



# 自治会の枠を超え、 地域防災力向上をめざす ～地域と公民館を結ぶ防災～

埼玉県春日部市 武里公隣防災対策連絡協議会  
共同代表 佐久間 勝



## 1 はじめに

当協議会は、武里地区公民館に隣接する4つの自治会（備後同友自治会、備後朝日ヶ丘自治会、備後須賀第四自治会、上川町会）で構成されています。

そもそも、当協議会が発足したのは、平成24年に自治会の防災訓練を公民館職員が見学した際、地域住民から「毎年同じ防災訓練をするのではなく、防災についての勉強会等がしたい」といった声がかっけでした。その後準備会を経て、武里公隣防災対策連絡協議会は始動しました。公民館は当協議会で活動内容等の検討をする際の良き相談役として関わり、一方で地域住民は公民館周辺の美化活動及び公民館事業に協力するなどして、行政と地域住民の連携により、活動を拡充させて参りました。また、平成25年度文部科学省事業「公民館等を中心とした社会教育活性化支援プログラム」の採択を受けたことにより、防災マップやガイドブック作成のみならず、災害時要援護者名簿の作成などを短期間で行うことができました。平成26年度以降も積極的に活動を継続させていき、災害時要援護者の支援体制の確立や防災訓練、避難所開設・運営訓練、購入備品取り扱い訓練等、もしものときを想定した実働訓練の基礎を築きました。

## 2 防災訓練

防災訓練は、発足当初から毎年1回欠



スタンドパイプ消火訓練の様子

かさず実施しています。特に、平成28年度から「消火訓練」に力を入れて取り組んでいます。当協議会は住宅が密集しており、火災等があったときに燃え移る危険があります。また、細い道が多く、火元近くまで消防車両が入っていけないため、消防隊員がすぐに到着できるとは限りません。そのためいざという時、地域住民で協力して消火にあたることのできるよう「スタンドパイプ消火訓練」を実施しています。道路上にある消火栓等に差し込み、ホースをつなぎ消火を行うことのできるスタンドパイプを活用し、地域を火災から守る練習を市消防本部指導のもと行っています。

その他、救助訓練、救護・搬送訓練、起震車・煙体験等も防災訓練の中で行っています。毎年、訓練の最後にアンケートを実施し、地域住民の声を大切に、訓練内容の見直しを行っています。また、平成28年度まで宿泊訓練を実施していました。暑さの厳しい夏や寒さの厳しい冬



HUG訓練の様子

に宿泊し、電気が使えないという想定のもと、暗闇体験や空調を止めて暑さや寒さも体験しました。この訓練を活かし、どうすれば暑さや寒さを和らげられるのか検討し、赤い羽根共同募金会の助成を受け、防災用資機材も購入するなど対策を講じています。

### 3 避難所開設・運営訓練

当協議会発足後は、まずは安全なところへ多くの人が避難できることを念頭に、災害時要援護者を地域で把握し、近隣の住民で支援に行く体制を整えることに重点を置いて活動してきました。しかし、避難だけでは災害に立ち向かうことは困難だと東日本大震災から学びました。避難所などにおける生活の肉体的・精神的疲労等により亡くなった方は全体の半分ほどにのぼるといわれています。この震災から学び、近年では市防災対策課の指導のもとHUG訓練を行い、避難所開設・運営訓練へと繋げた実働訓練にも取り組んでいます。武里地区公民館に避難して来る様々な状況の住民をどのように受け入れ、避難生活が少しでもストレスなく送れるようにするにはどうすればいいのか考え訓練を重ねています。

### 4 結びに

当協議会は、発足してから5年ばかりのまだまだ新しい組織です。しかし、女性役員が少ないことや若年層の防災事業への参加率が思うように伸びないなど課題も多くあります。この課題を解決すべく、今年度から新たに「ぼうさい小町武里」という災害時における女性固有の悩みや不安を話し合い、当協議会の女性の視点を踏まえた防災・減災の取組の促進を目的とした組織を立ち上げました。また、地域の小・中学生に防災事業に興味を持ってもらえるよう夏休みに防災体験ツアー等を企画するなどの工夫も行っています。これからも地域一丸となって防災事業に取り組み、地域力向上に努めていきます。



ぼうさい小町武里 会議の様子



夏休み防災体験ツアーの様子